

虎杖悠仁はお兄ちゃん 説

コカゼリオン

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

「縄索視点での過去妄想です。ネタバレも含みます。もしかして虎杖悠仁はお兄ちゃんなんじゃないかと思ったので書きました。

目次

虎杖悠仁はお兄ちゃん説	1
両面宿儺は双子説	4
お兄ちゃんは新死相説	7

虎杖悠仁はお兄ちゃん説

私は自らの生み出すもの以上の可能性を見つけ出すことが出来なかった。

全てが自身の可能性の範囲でしか事をなせない。

これでは新たな可能性を開くことができない。やはり天元を星漿体をどうにかするしかない。あの因果を断ち切るにはどうすればいいのか。

そんな時に出会ったのが、見つけたのが禪院甚爾だった。

呪力の最適化を目指していた私からしたら、その存在は天啓とも言えた。天与呪縛によるフィジカルギフト。一切の呪力が宿っていない、圧倒的な身体能力を持つ者。

私からしたら身体能力はオマケに過ぎなかったが必要なのは呪術、呪力からの脱却、逸脱したその存在そのものだ。その特異性を利用し、忌々しい因果を断つ。その為に利用する。

そこからは根回しや、研究、実験の繰り返しだった。だが夏油傑を、呪霊操術を見つければプランを変更した。天元の存在を利用した呪力の最適化を目指すことにした。

そこからは早かった。天逆鉾を禪院甚爾の手に渡るように手を回し、夏油傑を呪詛師になるよう誘導した。だが予定外のことが起きた。禪院甚爾は伏黒甚爾になり依頼を

受けなくなった。そこで妻を殺し、宗教を利用し、組織を利用し伏黒甚爾を雇った。

同時に失敗した時のサブプラン、両面宿儺の器も作った。

優秀な母体を使い、天与呪縛によるフィジカルギフトッドを作った。

あくまで不完全な天与呪縛、一般的な呪力量を持った存在を作った。宿儺の器にするには完全に呪力から脱却した存在はバグを引き起こす可能性があるからだ。

その肉体には呪物による呪力の引き上げを行う。呪物は呪霊の子を孕む特異体質のあの娘が最初に孕んだあの呪物を使うことにした。そのあとに私の作成した呪胎九相図では赤血操術の術式を持っていたので宿儺の器には適さない。術式同士の衝突を防ぐ為、あくまでプレーンな状態の呪物が望ましかった。

宿儺の器を作り終えた私は万全の準備を整えてた。だか失敗は杞憂だった。星漿体は死に、天元は呪霊に近づき、伏黒甚爾は死に、夏油傑は私の新たな体になった。ほぼ完璧と言える成果だった。

そこからは皆も知っている流れだ。私は呪霊と手を組み宿儺の器、虎杖悠仁に両面宿儺の呪物を取り込ませる事に成功した。

あとは獄門疆を利用し五条悟を封じ、真人を取り込み、死滅回游を始める。これからも困難を極めるだろうが必ず成功させる。全ては呪力の最適化によるその先の行いの

為に。

(((((終わり)))((

両面宿儺は双子説

私の考えでは宿儺の器は魂が二つ必要だ。

それは両面宿儺が二卵性双生児だからだ。いや、具体的に言えば二卵性の結合双生児だ。両面宿儺はその生まれから、生まれながらに肉体に強制された縛り、天与呪縛を負っていた。生まれながらに死んでいて生きていた。この特殊な生まれにより莫大な呪力、二つの術式を持っていた。

そうなると器は二人分の容量が必要だ。プレーンな術式の無い呪物を器となるものに取り込ませる事で二人分確保する。あらかじめ取り込ませる事で器の中の宿儺に消されるという事態にはならないだろう。そして器にはフィジカルギフテッドの天与呪縛を使用する。

そうする事により生きていながら死んでいる状態を疑似的に作り出し、尚且つ強靱な肉体と呪力を確保することができる。

そして両面宿儺が受肉した後にはどのような行動するかは、禪院家相伝の十種影法術を

持つものが生まれるかどうかで変わってくるだろう。

宿儺は何故死んだのか、老衰、病死、事故死どれも違う。ある存在に殺されたからだ。その存在との再戦を恐らく両面宿儺は望んでいる。そして圧倒し食す事を望んでいる。そのために、十種影法術の死者の蘇生を望んでいる。この死者蘇生の奇跡を体現する者を待ち望んでいる。

まあ私は呪力の最適化ができれば宿儺で無くても何も問題ないからね。あくまでザプラン、失敗した時の滑り止めにしかな過ぎない。

そんなことより私が考えなくてはならないのは五条悟の始末する方法だ。獄門彊で

の封印が失敗したら全てが無駄になる。忌々しい六眼は殺したところで、また生まれる。必ず封じなくてはならない。これからはそのための弱点を作っていくことになるだろう。ライバル……いや、親友あたりが良いだろう。そいつの体を奪えば一分くらいならどうにかなるだろう。

それも御三家やそれに近しい関係者以外、出来れば一般の家庭からの優秀な呪術師が望ましい。そうすれば五条悟との関係性もより良いものになるだろう。場合によっては高望みかも知れないが、呪霊を操るような術式であればプランの変更もできてなお良いのだけでも。

さあ、これからさらに大変になる。一つのミスも許されずに針の穴に糸を通すような繊細な作業を当たり前のようにこなしていくことになるだろう。その先に私の望んだ混沌があるはずだ。

(((((おわり))))))

お兄ちゃんの新死相説

私が配った呪物は千年前から私がコツコツ契約した術師達の成れの果てだ。

だが私と契約を交わしたのは術師だけじゃない。

まあそっちの契約はこの肉体を手にした時に破棄したけどね。

それは私が呪胎九相図を作るきっかけとなった存在。呪霊との間に子供を孕む特異体質を持った娘が抱えた赤ん坊の亡骸の存在だ。

その呪物を私は新死相と名づけそれに続くように呪胎九相図を作り出した。

そして私はこの新死相に契約を持ち掛けた。他の術師達の成れの果ての様に。

だが私は夏油傑の肉体を手に入れた。この肉体の術式を使えば私の理想に近づく。だからいろいろな契約は前の肉体と共に破棄をした。

それから私は宿儺の器にその呪物を組み込んだ。これは宿儺の器を作る為でもあるが、両面宿儺を死滅回遊に参加させる為でもあった。

契約を破棄したことにより、都合の良く両面宿儺を使う。

どう動くかは予測しづらいが、死滅回遊に参加してプレイヤーを減らしてくれても、参加せずに術式を剥奪されてもどちらでも私はよかった。

たとえ死んだとしても問題はなかった。死滅回遊のルール8にあるように、「参加または点取得後、十九日以内に得点の変動が見られない場合、その泳者からは術式を剥奪する」このルールは一見生者にだけ適用されている様に見えるが死者をも含んでいる。このルールにより死後十九日で術式が剥奪されるからだ。

そして剥奪された術式は私の所に集まって行く事になる。死滅回遊は最終的に全ての術式が私の物になるルールになっている。両面宿儺が最後まで残ったとしても、相手がいなければ術式は剥奪される。全ての術式を使い私の理想を私の可能性を超えて創り出す。

